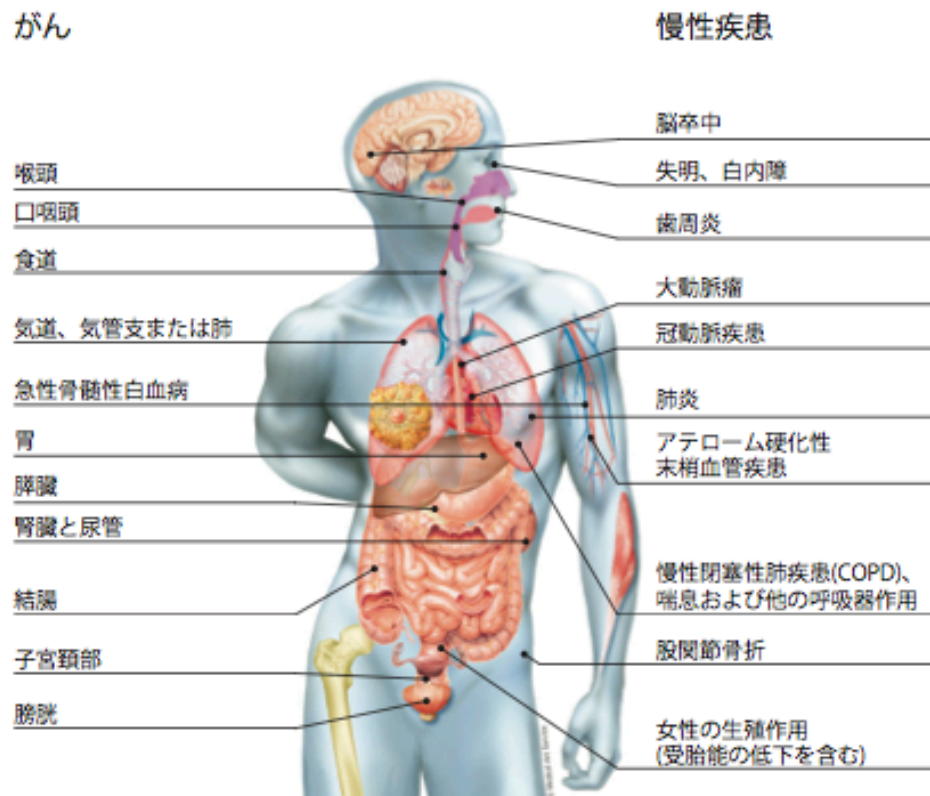
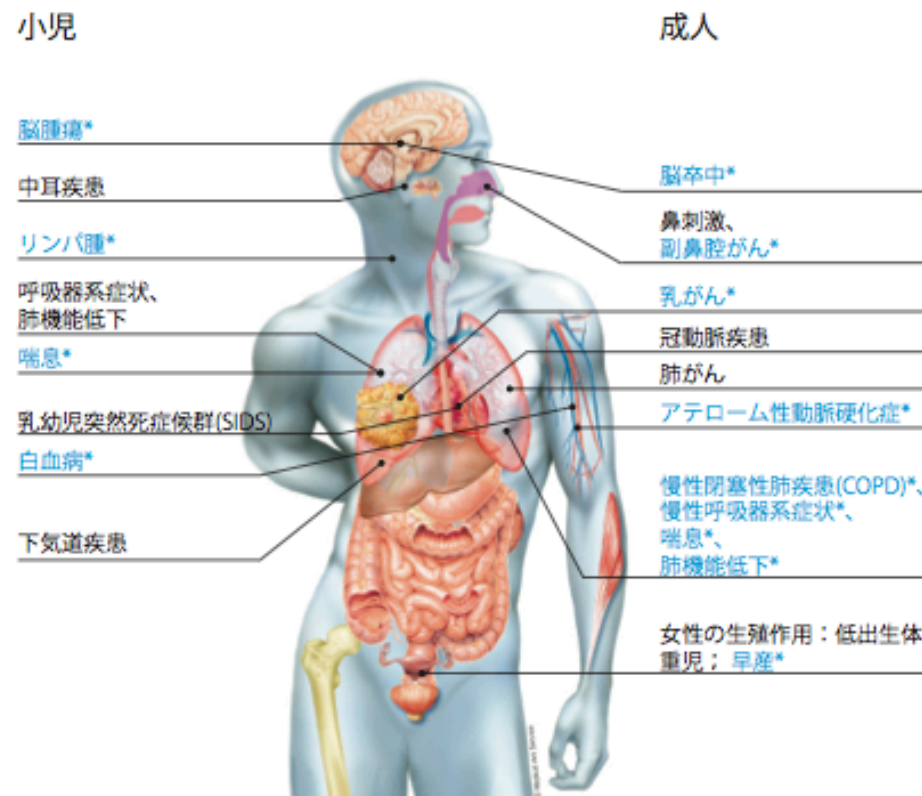


# 米国保健省公衆衛生総監報告書による 喫煙・受動喫煙と各種疾病との因果関係の判定

## 喫煙が引き起こす疾患



## 受動喫煙が引き起こす疾患



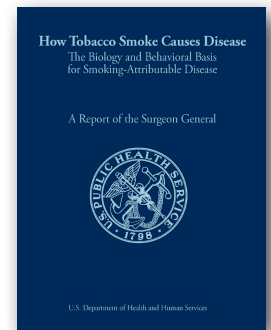
\* 因果関係の証拠：示唆的  
因果関係の証拠：確実

1. 喫煙は殆ど全ての臓器を冒し、多くの疾病の原因で、喫煙者の健康を損なう。2. 禁煙は直ちに、また長期的な便益をもたらし、喫煙による疾病のリスクを下げ、健康状態を改善する。3. タール・ニコチン量の少ないシガレット喫煙は健康に明らかな便益をもたらさない。4. 腹部大動脈瘤、急性骨髄性白血病、子宮頸がん、腎臓がん、膵臓がん、肺炎、歯周炎、胃がんが喫煙病のリストに加わった。

1. 受動喫煙は小児と非喫煙者の早世死亡と疾病の原因である。2. 受動喫煙を受けた小児はSIDS、急性呼吸器感染、中耳炎、重症喘息のリスクが高い。両親の喫煙は小児の呼吸器症状の原因で、肺の発達を遅らせる。3. 受動喫煙は成人では循環器系への害が直ちにもたらされ、虚血性心疾患と肺がんの原因となる。4. 受動喫煙への曝露にはリスクフリーのレベルはないことが科学的証拠で示されている。

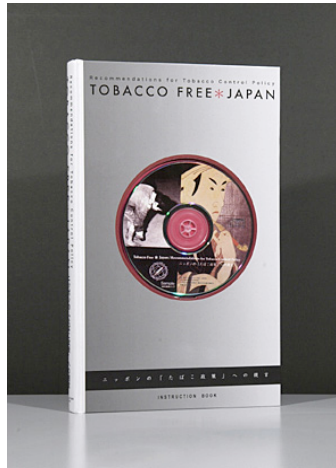
# 米国公衆衛生総監報告書2010の結論

## たばこ煙はどのように疾病を引き起こすか： 喫煙による疾病の生物学及び行動学的基礎



1. たばこ煙への曝露にはリスクフリーレベルはない
2. たばこ煙という複雑な不完全燃焼物質の化学的混合物を喫煙することで、DNA障害、炎症、酸化ストレス等のメカニズムを通じて、がん、循環器疾患、呼吸器疾患になる
3. たばこ煙への曝露の期間と量とがリスクの大きさや重症度と直接関係している
4. 持続的かつ長期間の使用は、ニコチンや他の物質を介した脳内ニコチン受容体に対するたばこ製品の強力な依存性作用による
5. 受動喫煙を含む低レベル曝露でも、血管内皮細胞の不全や炎症を急激に引き起こし急性心循環器系発作や血栓症の原因となる
6. たばこ煙の特定の毒性物質の排出を減らすという製品改良戦略が、主要な健康障害を低減させる証拠は不十分である

# 「Tobacco Free\*Japan：ニッポンのたばこ政策への提言」



海外と日本における喫煙・受動喫煙と各種疾病との関係を国立研究機関の研究者がレビュー、国際比較したエビデンスに基づき、日英2カ国語で1200ページの報告書にまとめ、条約後の日本社会に向けて政策提言を行った（2003年）。提言の半数は実現されている。

成果の一部：喫煙の肺がんリスクについて、日本の相対危険度は海外の報告に比べ低い。累積喫煙量（曝露量）の差によってもかなり説明できることを示した。

Figure 2.7 Quantitative Analysis of Cigarette Smoking and Lung Cancer Risk

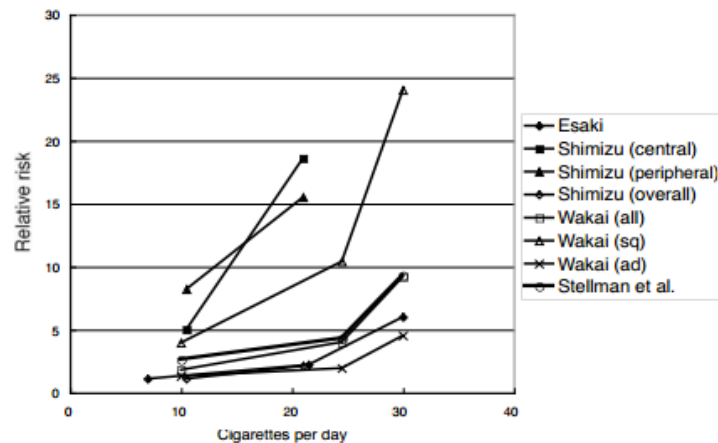


Figure 2.8 Comparison of *per capita* Cigarette Consumption

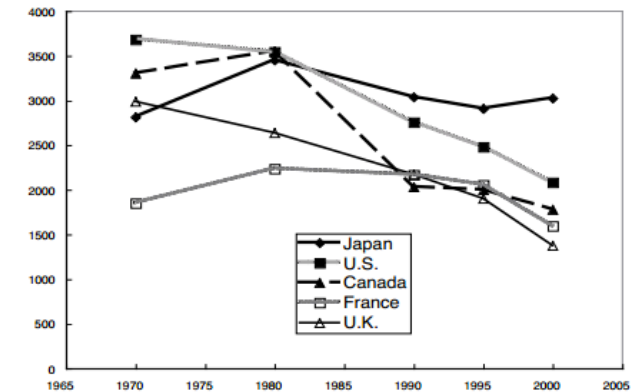


Figure 2.9 Cumulative Consumption and Lung Cancer Mortality Rate

